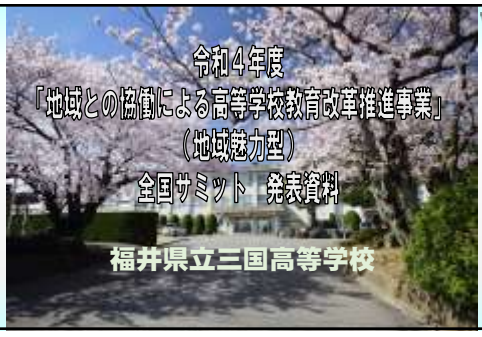


本日の発表内容

- 01 本校における事業概要等
- 02 研究開発したカリキュラム等の研究成果
- 03 今後の展望

01 本校における事業概要

01 本校における事業概要

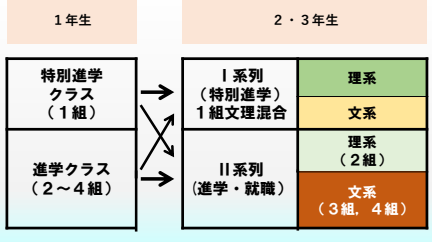
01 本校における事業概要

令和４年度４月の生徒数
（本事業は全校生徒対象）

学科	１年	２年	３年	計
普通科	１３９	１３１	１２９	３９９

01 本校における事業概要

教 育 課 程 の 流 れ



01 本校における事業概要

「あったらいいね」をカタチにする！
～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～

【研究開発の背景】

本校では、令和２年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習を実践することとした。

01 本校における事業概要

校訓　心高かれ

教育目標　高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献する人を育成する

目指す生徒像　【究】【挑】【結】【愛】

地域協働プロジェクト推進室 ＋ 各部署 ＋ 各学年会

【令和４年度の目標と取組状況】

（1）「三高地域魅力化プロジェクト」を推進
総合探究学習においてすべての生徒が地域探究を実施

（2）地域協働協議会『ワクワク未来考場』の実施
地域探究同好会を立ち上げ、空き家の「吉野家」を拠点として地域の方々との交流活動に取り組む地元のまちづくり協議会や大学と連携し、各種イベントの企画・運営

（3）『三国高校コミュニティデザイナー』の資格認定
三高地域魅力化プロジェクトの取組み成果に応じて本校独自の資格を認定

（4）学校設定教科「三国地域学」の開設
「三国の文化資源探究」「三国の環境資源探究」で地域をテーマにした発展的な探究学習を実施するためのカリキュラム開発および研究授業の実施

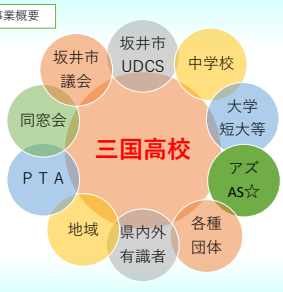
01 本校における事業概要

【三高地域魅力化プロジェクトにおける探究学習の主な流れ】

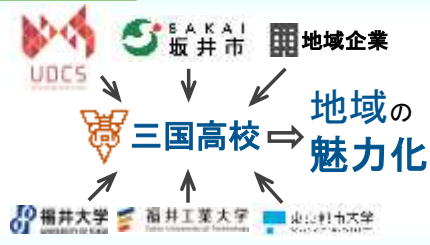
1年生　2年生　3年生

事例研究 → 空き家活用プロジェクト → テーマ選定 → 個人＋グループ研究 → 提案(市職員・議員等) → レポート論文 → 成果発表

01 本校における事業概要



01 本校における事業概要



本日の発表内容

01 本校における事業概要

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

03 今後の展望

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 三高地域魅力化プロジェクトの推進と三国地域学の開講

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

2 生徒への影響・変化

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

1年生 地域に根ざした現場主義からの探究

三国町内探索

アイディア発表

空き家活用プロジェクト

2年生の探究活動へ

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

2年生 坂井市への課題解決の提言活動

テーマ（例）	タイトル（例）
産業	らっきょうを全国に!!
公共事業	高齢者のための交通機関
観光地	海ゴミゼロプロジェクト
人口	人口を増やそうプロジェクト ~転入者を増やす~

発表の様子

議員さんからの質問の様子

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

3年生 ルーブリックを使った自己評価

- 3年間の学校生活を振り返って記入する
- スクールポリシーにある4つの目標に関して5つの観点で根拠も含めて自己評価する
- 2学期当初に行い、就職試験や入学試験等の面接で自己アピールに活用できるようにする

---

①まず、目指す生徒像を読んで、全体を把握しましょう。

②次に、達成段階を1から4に読んで、自分がどの段階にいるかを、経験などを検討に選びましょう。

福井県立三国高等学校　目指す生徒像についてのルーブリック

このルーブリック（評価基準表）には、２つの意義があります。１つは、生徒の皆さんが自身を客観的に見つめ直し、意識して挑戦し、自信をもって成長したと言ってもらうため。もう１つは、先生たちの授業や総合的な探究の時間、部活動などの運営が適切かを判断するためです。じっくりと自分の経験や行動を振り返り、一つ一つ自分がどの達成段階にいるかを、根拠をもって選んでください。４に達成するのはとても困難だと思います。高校３年間で、全ての項目が２～３に達することを、一緒に目指しましょう。

目指す生徒像			達成段階			
			1	2	3	4
【究】 自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出せる人	発見	授業や部活動などの学校生活、校外での生活・活動、地域などにおいて、現状を思い込みや先入観だけでなく、調査やデータ分析を通して客観的に把握した上で自分で課題を見つけ、それを様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシンプルな要素にすることができる。さらに、原因に対する自分なりの実現可能で有効な解決策を考えることができる。	様々な場面において、現状を客観的にとらえずに課題を感じている。	様々な場面において、現状を客観的に把握しようとするが、インターネット等で検索するにとどまっている。（自分で課題を見つけられない）	様々な場面において、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的に把握する。（自分で課題を見つけられない）	様々な場面において、現状を思い込みや先入観だけでなく、自ら調査やデータ分析を行い客観的・批判的に把握した上で自分で課題を見つけることができる。
	分析		課題を分析することができない。	課題の原因を分析し、大まかにつかむことはできるが、掘り下げることができない。	課題を様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシンプルな要素にすることができる。原因に対する自分なりの解決策を考えることができるが、実現可能性や有効性を考慮することができない。	課題を様々な視点から捉えて原因を分析し、解決可能なシンプルな要素にすることができる。原因に対する自分なりの実現可能で有効な解決策を考えることができる。
【挑】 様々な出来事や困難に勇気と信念を持って立ち向かえる人		困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても改善点を考え次の挑戦につなげることができる。	困難に対して消極的で、挑もうとしない。	困難に対して挑戦することができるが、一度で諦めてしまう。	困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても再挑戦をすることができる。	困難に失敗を恐れず挑戦し、失敗しても改善点を考え次の挑戦につなげることができる。
【結】 多様な人たちと協力しながら、自分の役割を果たせる人		所属する集団の目標達成や成長のために自分がすべきことを自分で考え、集団内外の人と協力しながら、役割を果たすことができる。	集団の中で自分の役割を果たすことができない。	集団の中で与えられた役割を果たすことができる。	集団の中で与えられた役割を、集団の内外の人と協力しながら、果たすことができる。	所属する集団の目標達成や成長のために自分がすべきことを自分で考え、集団内外の人と協力しながら、役割を果たすことができる。
【愛】 ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる人		ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。また、集団の目標を自分で考え表現することができる。	ふるさとや所属する集団の良さを表現できない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的ではないが表現できる。集団の目標を自分で考え表現することができない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。しかし、集団の目標を自分で考え表現することができない。	ふるさとや所属する集団の良さを具体的に表現できる。また、集団の目標を自分で考え表現することができる。

①まず、目指す生徒像を読んで、全体を把握しましょう。

②次に、達成段階を１から順に読んで、自分がどの段階にいるかを、経験などを根拠に選びましょう。

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

学校設定科目（三国地域学） 三国地域学による探究活動の深まり

【三国の文化資源探究】 2，3年Ⅱ系列文系が履修

三国の文化資源を５分野（伝統文化・食と物産・歴史的建築物・作家と芸術家・北前船）学習する

【三国の環境資源探究】 2，3年Ⅱ系列理系が履修

エネルギー、川や海、生物や農業を対象に、講演や実験、プレゼンを通して三国の環境の未来を考える

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

【三国の文化資源探究】

講演・実習・見学による学習

振り返り まとめ活動

グループ研究の発表

新たな課題発見

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 本校独自の探究のカリキュラムの確立

【三国の環境資源探究】

講演・実習・見学による学習

深める活動 まとめる活動

グループ・個人で 研究発表

振り返り 新たな課題

---

01 本校における事業概要

再掲

【三高地域魅力化プロジェクトにおける探究学習の主な流れ】

1年生 2年生 3年生

事例研究 → 空き家活用プロジェクト → テーマ選定 → 個人＋グループ研究 → 提案（市職員・議員等） → レポート論文 → 成果発表

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

2 生徒への影響・変化

「高校魅力化評価システム」の結果から分かる成果

①地域に広がる学習 (高校魅力化評価システムより)

(学習活動)
・地域の魅力や資源について考える学習
・地域課題の解決方法について考える学習
(学習環境)
・地域の人や課題などにじかに触れる機会
・自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会

---

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

2 生徒への影響・変化

②協働性の高まり(高校魅力化評価システムより)

・自分と異なる立場や役割を持つ人との関わり
⇒特に活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う機会が増加

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

2 生徒への影響・変化

③発表や実践機会の増加 (高校魅力化評価システムより)

・友達の前で自分の意見を発表することが得意である
⇒人前での発表に抵抗がなくなっている

・今住んでいる地域の行事に参加した
・地域社会などでボランティア活動に参加した
⇒地域の活動に興味を持ち、意欲的に地域貢献する

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

2 生徒への影響・変化

④進学先の決定 (本校の進路状況より)

・自分の特技を活用して福井の良さをアピールする方法を探究したい⇒国際地域学部へ

・地域の産業振興を推進したい⇒工学部へ

・入試での面接やプレゼン⇒自己アピール

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

2 学校内の体制および学校外体制構築における成果と課題

1 推進室の役割（成果）

2 学校全体での協力体制（成果）

3 スクールポリシーを提示しての指導（成果）

4 コンソーシアムとの関係（成果・課題）

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

1 地域協働プロジェクト推進室
（９名：管理職２、教務３、各学年３、事務１）

2
- 総合的な探究の時間
  1,2,3年各学年会
  正副担任
  各８名ずつ
- 学校設定科目
  (文化資源探究の担当)
  国語・地歴・芸術
  英語・家庭
  (環境資源探究の担当)
  数学・理科・体育
- 地域探究同好会
  顧問２名
  会員 22名

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

3 スクールポリシーを提示しての指導（成果）

◇育てたい生徒像（グラデュエーションポリシー）
「心高かれ」という校訓のもと、次の４つの力を身につける

【究める力】
自ら問いを立て、課題に対する答えを見つけ出す
【挑む力】
様々な出来事や困難に勇気と信念を持って立ち向かう
【結ぶ力】
多様な人たちと協力しながら、自分の役割を果たす
【愛する力】
ふるさとへの愛着や周囲の人々への敬愛の念を持って行動できる

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

4 コンソーシアムとの関係

＜令和４年度地域協働プロジェクトコンソーシアム構成団体＞

- 福井大学
- 福井県立大学
- 福井工業大学
- 仁愛女子短期大学
- アーバンデザインセンター坂井 東京大学、東京都市大学
- 県内高校 課題解決型学習モデル開発校
- 坂井市議会
- 坂井市役所
- 三国高校 ＰＴＡ
- 三国高校 同窓会
- 坂井あわら ふるさと創造 推進協議会
- 坂井市各地区 まちづくり 協議会
- 坂井市内 各中学校
- 三國會所
- 地域内企業 ＩＩＯプロデュース　松島水族館 石丸ハウスセンター　福井銀行 田中化学研究所他
- 三国本町商店

（成果）
各団体と１対１の関係を結ぶことができた

（課題）
各団体の横のつながりが不十分であった

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

3 コーディネーターについての成果と課題

令和３年度（２年目）よりUDCS所属の方１名配置

成果

対応案件の拡大

⇒空き家の手配、市との連絡調整、訪問先の開拓

地域人材の確保

⇒企業関係者、三国祭関係者、商店街関係者との折衝

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

3 コーディネーターについての成果と課題

課題

勤務時間の制限

⇒現状では週３日×４時間

本日の発表内容

01 本校における事業概要

02 研究開発したカリキュラム等の研究成果

03 今後の展望

03 今後の展望

1 スクールポリシーをもとにしたカリマネの推進

・職員協議会、研修会、教科会で推進

⇒目的・目標と手立てが合致した活動を考える

・PDCAサイクルを回す

⇒カリキュラムの評価・改善へ

03 今後の展望

2 坂井市とのさらなる協力体制

・支援事業へのチャレンジ

⇒本事業のノウハウを活かして企画を考える

・コーディネーターの拡充

⇒勤務日、時間の増加

03 今後の展望

3 探究的な学習の各教科への拡大

・教科横断的な学習の推進

⇒スクールポリシーの実現

⇒各教科の特性を活かす

03 今後の展望

4 まとめ

「**研究開発の背景**」より

①**地域にある資源を活用**できた
②**地域人材と協働**することができた
③**当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材**を育成するカリキュラムも構築できた

⇒「**高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する**」という目標に近づいている

03 今後の展望

4 まとめ

今後は生徒の「学びの意欲」をさらに引き出し、

「主体性」を育てることを目指して、

教育活動を推進していく